

vol. 276

Spring 2024

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

Ochadai GAZETTE

お茶大ガゼット

Contents

02 新たな工学の扉をひらく

佐々木 泰子

お茶の水女子大学長

04 時空を超えて広がる知の世界

— お茶の水女子大学附属図書館 —

08 教員紹介

伊藤 大幸

基幹研究院人間科学系 准教授

09 卒業生紹介

岸本 万里英 さん

文教育学部人間社会科学科 卒業

10 附属学校園からのお知らせ

お茶の水女子大学附属いずみナーサリ-

新たな工学の扉をひらく

お茶の水女子大学は、1875年に御茶ノ水（現文京区湯島）の地に、東京女子師範学校が設立されたことに始まります。1890年に女子高等師範学校となってからは、我が国随一の女性のための官立高等教育機関として学びを求める全国の女性たちの憧れの的となりました。婦女新聞社『婦人界三十五年』（渋沢社史データベース、明治38年（1905）4月）に「女子の高等教育漸く昂まり、女子大学は締切後も入学志願者続倒、女高師は本年の募生定員七十五名に対して志願者八百十五名に達す」と当時の様子が記されています。

海外進出が困難な時代から、本学の卒業生は国際的にも活躍してきました。女子教育に力を注ぎ、東京女子大学第二代学長となった安井てつ、日本初の女性理学博士となった生物学者の保井コノ、女性初の帝国大学生となり、英国に留学して理学博士となった化学者の黒田チカ、緑茶の成分について研究を重ね、日本初の農学博士として活躍した辻村みちよ、米国に留学した後、男女共学論を唱えて活躍した小泉郁子、そして第2次世界大戦

前後にフランスに渡り、フランスを拠点として活躍し、日仏の研究者交流に尽力した物理学者の湯浅年子。この他にも、東京女子師範学校の卒業生の武田錦子（旧姓加藤）は文部省留学生第一号として米国のセブンスターズの一つであるウェルズリー大学初の留学生となりました。ウェルズリー大学には続いて岡田美津、辻まつ（旧姓 小此木）が留学しています。帰国後はそれぞれ母校の女子高等師範学校の英語教師となり、岡田は英文学者としても活躍し、辻は後に津田塾大学教授・理事となり女子教育に貢献しました。このように、お茶の水女子大学は創立当初から現在に至るまで、熱い志をもった教育・研究のリーダーたちを輩出し、ポスターレスに大きな役割を果たしてきました。

そして、戦後の学制改革（1949年）によりお茶の水女子大学が発足、翌年文教育学部、理学部、家政学部（現在の生活科学部）の3学部を持つ女子総合大学となり、1963年には修士課程、1976年には博士課程を設置するなど、教育・研究環境を整えながら、たゆみ

ない発展と進歩を遂げてきました。

現在、ジェンダー・ギャップ指数世界ランキング（GGI）で日本が低迷していること、なかでも「政治」と「経済」の分野への女性の進出が遅れていること、また大学工学部における女性教員・女子学生の割合がすべての学部の中で最も低いことなどからもたらされる諸課題が指摘されています。例えば、失われた30年とも言われる日本の産業界のイノベーション力の停滞、その一因としての日本企業におけるダイバーシティの低さなどが指摘されているのです。背景には、日本社会にいまに残る工学＝男性というアンコンシャスバイアスがあるといわれます。そのような時代において、4月に新設された共創工学部は多方面から大きな期待が寄せられていると言っても過言ではありません。

思えば本学には、1992年に家政学部が生活科学部に改組された際、すでに生活環境学科に生活工学講座という「工学」系の講座が設置されています。本講座の設置については、

例えば「わが国では、人口の高齢化や、出生率の低下、女性の社会進出、家族の変容、産業構造の変化、技術の高度化、情報化、生活環境の変化などが進行しており、21世紀にはその影響が日常生活に広く及ぶことが予測されている」「生活工学を学んだ卒業生が、女性の立場から生活用品、生活システムへの提案をしていくことは今後地球環境を守っていくうえでも極めて重要」「本講座の生活者の視点に立った工学的教育・研究の成果は、地球や人間にとり良い環境、そのための生活材料の在り方、取り扱い方について広く新しい知識と技術をみにつけ、将来の生活環境の変化に対応できる卒業生を誕生させ…社会的要求にこたえた人材を積極的に送り出すことができる」などと期待されました。このように、本学は、これまで30年以上にわたり工学研究・教育に取り組んできましたが、その成果は2016年に始まった奈良女子大学と協働する生活工学共同専攻から工学修士・工学博士を輩出することに結実しています。

本学の歴史をさらに遡ると、女高師から東京工業大学へ進み、1934年に日本初の女性工学士となった折原さだ。折原に続き、東京工業大学に進んだ複数の女高師卒業生、東京工業大学初の女性教授となった高木ミエ、日本初の女性一級建築士となった建築家の浜口ミホなど、すでに昭和初期から工学分野への卒業生の進出が見られます。さらには桜蔭学園を設立したことでよく知られている本学同窓会「桜蔭会」は、桜蔭女子技術員養成所（1940）、桜蔭女子工学院（1945）を設置し、女子の工業学校の設立に取り組みしました。

共創工学部ではこれらの伝統を礎に「工学と人文学・社会科学の知を協働し、共に未来の環境、社会、文化を創る工学系女性リーダーの育成」を目指します。そしてSDGsや

多様性を包摂する社会の実現に貢献し、新たな工学知を創出するべく努力してまいります。

皆さまが、本学とともに新たな歴史のページを歩んでくださることを心より願っています。



2024年4月
お茶の水女子大学長

佐々木 泰子



時空を超えて広がる 知の世界

お茶の水女子大学附属図書館は、目的に応じた学習環境の提供など居心地のよさを大切にしていますが、もちろんそれだけではありません。今回の特集では、皆さまの学習・研究をサポートするサービスと図書館で活躍する学生をご紹介します。

お茶の水女子大学附属図書館はキャンパスのほぼ中央にあり、食堂も近く、どの講義棟からもアクセスしやすい場所にあります。空きコマに一息つくもよし、じっくり課題に取り組むもよし、皆さまのニーズに合わせて使い分けができる図書館となっています。

附属図書館は2018年4月にリニューアルし、スペースを贅沢に使った開放的な空間となりました。学内の蔵書数は研究室も合わせて約70万冊あり、そのうちの約42万冊が図書館に所蔵されています。また、図書館では約1万タイトルの電子ジャーナル、約3万7千タイトルの電子ブックを契約しています。「時間と空間を超える知的交流の場であり、次世代の知

を創造し発信する学術情報基盤として機能する」という理念の下に、図書館は単なる“本が置いてある場所”ではなく、皆さまの学習・研究活動の形態に即して滞在できる居場所として、また、学内外から快適に情報へのアクセスができるようサポートをしています。本学の卒業生・修生・元職員の方等、学外の方へのサービスも提供していますので、詳しくは附属図書館のホームページをご覧ください。

そして、お茶の水女子大学には、明治8(1875)年の開学にあたり昭憲皇太后から下賜された令旨・御歌「みがかずば」をはじめ、女子高等教育の歴史を語る上で欠かせない数多くの貴重な資料が残されています。これら

の資料は大学本館1階の歴史資料館に所蔵されています。歴史資料館では、大学資料の収集・保存、調査・研究および展示公開を行うとともに、教育研究の様々な場面における支援を実施しています。公開期間については歴史資料館のHPをご確認ください。

お茶の水女子大学
附属図書館ホームページ



お茶の水女子大学
歴史資料館ホームページ



図書館サービスのご紹介

図書館では、皆さまの学習・研究活動をサポートするため様々なサービスを提供しています。本学に所蔵がない資料を利用したい、情報検索の方法を知りたい、といった場合に役立つサービスをご紹介します。

本学所蔵の資料はお茶の水女子大学OPAC (Online Public Access Catalog) から検索できます。



◆ 図書購入依頼

本学に所蔵がない図書は購入依頼を受け付けており、オンラインサービス(図書館ホームページ右上「ログイン」からログイン)からお申し込みいただけます。購入希望理由や分野、価格、今後の利用の見込み等から購入の可否を判断しています。長期にわたり多くの学生に役立つと思われる図書がありましたらぜひご依頼ください。また、教員の方は、学生用図書として図書館に備え付けた方がよい図書もお申し込みいただけます。

◆ 学外からの資料の取り寄せサービス

本学に所蔵がない資料は他大学・機関から取り寄せることができます。図書・雑誌のコピー(著作権の範囲内)を取り寄せる文献複写と、図書の現物を借り受ける現物貸借があり、学部生と院生の方は、どちらも取り寄せにかかる料金を大学が負担します(年間の上限金額や一部制限があります)。購入した図書は利用可能になるまで整理のためのお時間をいただきますが、資料の取り寄せサービスから申し込んだ資料はお申し込みから1~2週間程度で到着しますので、早めに利用したい場合はこちらをご利用ください。詳しくは図書館ホームページ「学外からの資料の取り寄せ」をご覧ください。なお、図書館ホームページ「学外からの資料の取り寄せ」を申し込む前に、本学に所蔵がない資料の入手方法をまとめていますので、こちらをご覧ください。

◆ 情報リテラシー支援

LALAによる情報検索レクチャー動画

学術情報の検索方法をいつでも確認いただけるよう、LALAによる情報検索レクチャー動画をMoodleで公開しています。図書や雑誌論文といった種類別の検索方法や、著作権、引用のルール等、計8つのテーマ毎に分かれています。1本5~10分程度の動画ですので、隙間時間にご覧いただけます。この部分だけでもう一度聞きたい、1年生の時に聞いた内容を忘れてしまった…等、目的に合わせてご活用ください。

オーダーメイド講習会

授業やゼミ、研究室等のグループ単位でお申し込みいただけるオーダーメイド講習会も実施しています。特定のデータベースの説明や分野に沿った検索キーワードの設定等、ご希望に応じて講習会の内容をアレンジいたします。詳しくは図書館ホームページ「オーダーメイド講習会」をご覧ください。LALAによる情報検索レクチャー動画よりさらに詳しく知りたい内容がある場合にご活用ください。

◆ 機関リポジトリTeaPot

本学が発行する紀要や関連の深い学術雑誌等の教育・研究成果物をオンライン上で公開しています。その他にもE-bookや動画など、多様なコンテンツが見られますので、ぜひご覧ください。本学に在籍している教職員及び大学院生の方からの登録も常時受け付けています。

お茶の水女子大学教育・
研究成果コレクション
TeaPot



学生アシスタントのご紹介

図書館と歴史資料館では、学生がスタッフと協働し、さまざまな形で活躍しています。「学生との協働」は、お茶大図書館の大きな特徴です。

LALAキャラクター
ららさん達



赤松附属図書館長からのメッセージ

附属図書館は、単に本がある場所だけではなく、新たな知を生み出し、発信する場として、皆さまの学習と研究の支援をしたいと考えています。多様な附属図書館のサービスを知っていただき、ぜひご活用ください！



LiSA (Library Student Assistant)

図書館スタッフとの協働による図書館活性化のため活動を行っている学部生です。

図書館での業務体験を通し、幅広い資料に接することによる学習効果、高い職業意識の形成、サポートする側になることによるキャリア意識形成などを目的に実施しています。

LiSAのお仕事には、図書の装備・修理、書架整理などの図書館の基本的な業務の中から選択する「通常業務」と、LiSAが企画立案から実施までを行う「自主企画」があります。自主企画では、新入生向けの図書館ツアー、LiSA文庫の運営、企画展示などが行われています。



館内案内
動画



書架整理



LiSAキャラクター
しほりちゃん



カウンター

LALA (Library Academic Learning Adviser)

図書館1階スカイグローバルラーニングコモンズに設置しているLALAデスクで、学習・研究の相談に応じている大学院生(TA)です。

授業のある平日のお昼に、レポートの書き方や参考文献の見方などの基本的なことから、研究の進め方などの一歩踏み込んだ内容の相談にも応じています。

学習相談の他にも、よくある質問をテーマに取り上げ、自身の研究の進め方や経験なども伝えるLALAセミナーを不定期で開催しています。



LALAセミナー



学習相談

MuSA (Museum Student Assistant)

歴史資料館スタッフとの協働による歴史資料館活性化のための活動を行っている学生です。

歴史資料館での業務体験を通し、幅広い資料に実際に接することによるスキルアップを目的に実施しています。

企画展示の設営(パネルの作成や展示等)、データ入力(目録作成)、収蔵庫と展示室の温湿度チェックといった収蔵資料に触れる業務の他に、MuSAブログの執筆やブログ上でのオンライン企画展、チラシの作成といった業務も行っています。



お茶大
歴史資料館
MuSA広報室



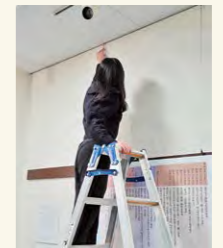
資料整理



MuSAキャラクター
ちせちゃん



歴史資料館内部



展示設営

学部長のおすすめ書籍



『知の技法』

小林 康夫・船曳 健夫 / 東京大学出版会

大学では与えられた知識を学ぶだけではなく、自分で新たな知識を生み出していくことが求められますが、そのために役立つのが本書です。初版から既に30年ほど経っていますが、現在でも十分に輝いています。第I部では文系の学問に対する考え方を学べます。第II部は知的生産の現場に触れることができます。プログラム選択にも役立つでしょう。第III部は内容が少し古いですが、今でも十分参考になると思います。本書を活用して大学での学びを深めてください。

文教育学部長 新名 謙二



『光と物質のふしぎな理論：私の量子電磁力学』

R.P.ファインマン / 岩波現代文庫

最近、量子コンピュータなど、量子という言葉をよく耳にするようになりました。量子電磁力学の研究でノーベル賞を受賞したファインマンによる本書は、数式を使わずに一般人向けに量子電磁力学を解説した書籍です。ファインマンの明快で独特な解説は、この超難解な理論の面白さ、不思議さを一般の人々にもわかりやすく伝えることに成功しています。理学部の学生だけでなく、物理に興味がない新入生の皆さまにも、ぜひ読んでいただきたい一冊です。

理学部長 横川 光司



『泣き虫しょったんの奇跡 完全版 サラリーマンから将棋のプロへ』

瀬川 昌司 / 講談社文庫

本書は、将棋棋士である瀬川昌司氏がプロの将棋棋士になるまでの苦節を描いた自伝です。自伝とは言っても内容は小説のおもしろいし、文章も平易で読みやすい。ちょっと本は苦手、という方でも大丈夫。それになんといっても、紹介文にある「あきらめなければ、夢はかならずかなう!」という前向きな気持ちと、爽やかな読後感を得ることができます。これから大学生活を頑張ろうという新入生だけでなく、大学生活に少し疲れた人や色々迷っている人にも、是非お勧めしたい1冊です。

生活科学部長 飯田 薫子



『基準値のからくり』

村上 道夫、永井 孝志、小野 恭子、岸本 充生 講談社

本来、物事は客観的事実に基づき決められるべきだと思われがちです。しかし実際は「曖昧」ともいえる社会規範や慣習を取り入れないと社会に受け入れられません。この本はそういった面を基準値の決め方から示していると言えます。実は工学とは正にそういうものなのです。科学的データや緻密な情報を持つだけでなく、社会とのコミュニケーションを経て実際に社会に適用させるのです。この本を読んで、その一端を感じてもらえればと思います。

共創工学部長 大瀧 雅寛



伊藤 大幸 先生

基幹研究院 人間科学系 准教授

Profile

名古屋大学教育学部を卒業後、同大学大学院に進学し、博士(心理学)の学位を取得。日本学術振興会特別研究員、浜松医科大学子どもこころの発達研究センター特任助教、中部大学現代教育学部講師を経て、2021年10月に本学着任。

心の仕組みを探り

人の暮らしに役立てる

Hiroyuki Ito

Q1 ご専門の研究分野や研究内容についてお聞かせください。

私の専門分野は心理学です。心理学は大きく分けると、人の心の仕組みを科学的に明らかにしようとする「基礎」の領域と、カウンセリングや心理療法によって心の問題を抱える人を支援する「臨床」の領域に分かれますが、私はその中間にある「応用」の領域の研究をしています。応用の領域では、心の仕組みを明らかにすることを通して、人の暮らしに役立てることを考えています。

現在メインで取り組んでいるのは、子どもの心の発達と精神病理に関する大規模縦断研究です。ある都市の全ての子どもを乳幼児期から思春期に至るまで追跡して調査することで、不登校、いじめ、非行、自傷行為などの心や行動の問題のメカニズムを探り、予防・介入の方策について提言することを目的としています。15年以上にわたり、毎年1万人以上の子どもを対象に調査を継続してきており、心理学領域では国内で最大規模の縦断研究となっています。不登校がなぜ増えているのか、いじめはどうして起こるのか、自傷行為や自殺はどうすれば防げるのか、どれも子どもの成長や教育を考える上で最も大事なテーマだと思いますが、日本で

は実証的なエビデンスが少なく、経験や直感に基づく対応に依存しているのが現状です。私たちの研究は、こうした問題に対して、科学的な根拠に基づいた対策を行うための基盤的なデータを提供することを目的としています。

Q2 ご専門の研究に取り組むことになった経緯をお聞かせください。

自分自身が幼少期から経験してきた「生きづらさ」が私の研究の原動力になっているように思います。家庭があまり裕福ではなかったのに、塾に通えないとか、服が少ないとか、少ないおもちゃやおやつを取り合いで兄弟げんかになるとか、経済的な面での苦労を経験することがしばしばありました。また、小さい頃から極端な引っ込み思案で、対人関係を築くのに苦労していました。心理学の言葉で言うとHSC (Highly Sensitive Child: 過度に敏感な子ども) に該当する子どもだったのかもしれませんが。特に高校生の頃は、学校で誰とも会話せずに家に帰ることも珍しくありませんでした。おそらくこうした経験が、「この世界で生きづらい思いをしている人を一人でも減らしたい」という今の研究のモチベーションにつながっているのかなと思います。

Q3 ご専門の研究のやりがいや面白さについてお聞かせください。

人の心の仕組みを探る心理学は、人間に関わる非常に広い範囲の社会的課題の解決に貢献できるポテンシャルを持っています。心理臨床(心のケア)はもちろん、教育、子育て、あるいは、事故や犯罪の抑止、もっと大きいところでは環境問題や紛争の防止などにも役立てることができます。研究を通して多くの人の暮らしの質の向上に貢献できる、こんなにやりがいのある学問領域は、他を探してもなかなかないのではないかと思います。

Q4 お茶大生にメッセージをお願いします。

前任校の所属が教員養成の学科であったこともあるかもしれませんが、お茶大生のみなさんは良くも悪くも奥ゆかしすぎるかなと感じています。せっかく少人数授業が多いのに、発言を求めてもシーンとしてしまうことが少なくありません。全ての学びがみなさんのこれからの人生を支えていく資源になります。ハイカラさんの精神に立ち返り、志と情熱を持って学びに取り組んでください。

担当: 今泉 修
人間発達教育科学研究所 准教授

Q1 現在はおどのようなお仕事をなさっていますか。大学で学んだことは活かされていますか。

総務省で主に情報通信政策に携わってきました。現在、省庁派遣で米国の大学院で学ぶ機会をいただき、卒業後は総務省での業務を再開予定です。総務省では、放送、通信、国際等、入省後の5年半だけでも幅広い業務を経験しました。卒論テーマが災害発生時の情報伝達だったため、学んだ内容が仕事に直結している部分はあるのですが、自分を取り巻くすべてが研究対象となる社会学を専攻し、何でも面白いと思えるマインドが養われたことは、短期間で多くの部署を経験する省庁での業務にも活かしています。

大学院では、経済、統計等公共政策に関する科目に加え、テック関連の授業を履修しています。学部と異なる専攻ゆえの苦労は多いですが、ちょうど今週の授業で先生が「テック業界に居ると直面する課題が全く新しいものだと思いますが、人間はそうそう変わらない。だからこそ、社会学や心理学で積み上げられてきた理論は、課題を検討する上での拠り所になってくれる」と仰っていて、留学生活の終盤でようやく学部時代と現在の学びが明確な線で繋がったように感じられ、とても嬉しかったです。

Q2 大学ではどんなことを学びましたか、またどんなことを学んでおけばよかったと思いますか。

社会学コースは10名程の少人数ながら多様な関心を持つメンバーが集まり、とても居心地が良かったです。この経験から、似た雰囲気や定評のある大学院を選択し、期待通り緊密で温かい環境で学んでいます。また、副プログラムに地理学を選んだのは、社会科教員免許取得のために授業を履修したことがきっかけです。実は高校の時にケッパンの気候区分という超初期段階で挫折して以来、ずっと苦手意識を持っていたのですが、大学での地理学はフィールドワークも含めてわくわくする体験が多く、いつの間にか大好きになっていました。このように、専門的な知識のみならず、自分に合ったコミュニティの形態を理解したこと、馴染みの薄い分野に飛び込んでみる大切さを知ったことも、大学で学んだ大切な一部です。

他方、頼れる人が少ない環境に意図的に身を置く経験はもう少し積んでおけば良かったと反省しています。留学当初、流暢に英語が話せない中で生活を立ち上げ、前提知識のない授業を受けるのは、想像以上に辛いものでした。頼れる人を見つけることから始める経験を重ねてい

れば、肩の力を抜いて留学生活を開始できたのではないかと考えています。

Q3 お茶大生にメッセージをお願いします。

国家公務員として働くことはお茶大入学時には考えていませんでしたし、海外の大学院で学ぶことは入省時には想像もしていませんでした。それぞれ、偶然出会った人々から影響を受けたことや、その時に目の前にあったチャンスに手を伸ばしてみたこと、そしてお茶大の先生や友達をはじめとする、その選択を応援してくれる方々がいたことの積み重ねで、今に至っています。

在学時の自分も含め、お茶大生は真面目さゆえに「自分にはこんなことはできないな…」と考えてしまうこともあると思いますが、やってみれば意外とどうにかなるものが大半なので、学業に留まらず心が動くあれこれに挑戦してみてください。もしどうにかならなさそうだなあと気づいたら、素直に周りの方々に頼ってみましょう。選んだ道を正解にしていける力が、皆さんにはあるはずです。

担当: 中野 裕考
基幹研究院 人文科学系 准教授卒業生
紹介

Interview

岸本 万里英 さん

総務省

Profile

2017年3月、文教育学部人間社会科学科社会学コース卒業。同年4月より、総務省にて主に情報通信政策に携わる。2024年4月現在、行政官長期在外研究員として米国カリフォルニア大学バークレー校公共政策大学院に留学中。

Marie Kishimoto

周りの方々を大切に、
ココロが動く方向を信じて

附属学校園からの お知らせ

小さな子どもたちの目線で大学を歩いてみると…



お茶の水女子大学附属いずみナーサリーは、0～2歳児の小さな子どもたちが通う学内保育施設です。
お天気のよい日は、ほぼ毎日大学キャンパスを中心にお散歩に出かけます。
この号では、小さな子どもたちのお散歩の姿をご紹介します。

大学本館に囲まれている“中庭”や、グラウンド、テニスコート奥の“広場”へとお散歩に出かけます。桜や紅葉のきれいな季節には茶室裏に行くこともあります（行かれたことのない方はぜひ一度行ってみてください!）。

目的地に向かって一直線!ではなく、“いいもの”“いいこと”を見つけては立ち止まり、しゃがみこみます。小さなアリやダンゴムシ、雨上がりの葉っぱについた雫、春の訪れを知らせてくれる小さな草花、道端に落ちている小石や小枝…と大人目線では気づかず通り過ぎてしまうような小さな小さな存在に目を向け、心を寄せます。子どもたちが手にした石を一緒に見ていると、ただの石が、味わい深い形に見えるから不思議です。

そしてそれは足元の自然物だけではなく、ひこうき雲をいち早く見つけて「ん!!(あったよ)」と指さしたり、突然吹く風に空を仰ぎ見て揺れる木の葉を眺めたり、鳥のさえずりに耳を澄ませたり、花や葉っぱ（図書館前にあるカツラの



木の落ち葉は秋になるとキャラメルのような香りがします)の甘い香りと柑橘系のさわやかな香りに気づいてふと立ち止まったり…そんな姿にレイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワンダー(神秘さや不思議さに目を見はる感性)」の“知ることは感じることの半分も重要ではない”という一節を思い出します。子どもたちと一緒に歩いていると、ただ通り過ぎるだけの道が、何か面白いものやことに出あう道になります。中庭の手前には学内の方が丹念にお世話してくださっている季節の花と共にかわいい猫の置物があり、お花を愛でながらこの猫が少しずつ向きを変えたり、お引越しているのを探すのも毎日の楽しみの一つです。

中庭ではベンチがお店屋さんになり、電灯はかくれんぼやお家のドアになり、排気口は“おばけちゃんのいるところ”になり、とその時々でさまざまなものに見立てたり、イメージして遊びが繰り広げられます。広場では縦横無尽に伸びている木の根っこがへびになったり、電車になったり、「大きなかぶ」ごっこで引き抜いたり、自分の背丈の倍以上の木をずりずりとひきずったり、と遊具がなくても、やわらかな頭とからだのみずみずしい感性で、自然豊かな大学キャンパスの季節を感じながら楽しんでいきます。



うんとこしょ どっこいしょ

緑石の一本橋あるき

中庭にて おばけちゃん いるかな

附属学校園での出来事 2024年1月～3月

Mar. 3

Feb. 2

Jan. 1

附属高等学校

- 始業式・大学入学共通テスト(3年)
- 学力テスト(1・2年)・保護者会(1・2年)

附属中学校

- 始業式・路線別一斉下校
- 保護者参観週間(1・2年)
- 特別時間割期間(1・2年)
- 日本語交流プログラム(オンライン交流)
- 課題発表セミナー(1年)

附属小学校

附属幼稚園

- 始業式
- 始業式・春を祝う会・クラス懇談会
- 全国児保護者会・避難訓練・安全指導
- 1月誕生会・避難訓練
- 4歳児親子で遊ぶ日・親子体操の会

いずみナーサリー

- 霜柱水遊び・足湯
- 避難訓練(地震・食事中・室内待機)・個人面談

こども園

- 年初め 2号・3号保育開始・始業式
- 全国児保護者会・避難訓練・安全指導
- 誕生会・表現遊びの会(4歳児)

附属高等学校

- 入学検定・合格発表

附属中学校

- 入学検定・合格発表
- 自主研究ポスター発表(2年)
- 期末テスト(全学年)・防災訓練(1・2年)

附属小学校

- 公開研究会(対面)・避難訓練

附属幼稚園

- 豆まき・公開保育研究会
- 5歳児バス遠足
- 2月・3月合同誕生会
- 5歳児親子で遊ぶ日・避難訓練(予告なし)

いずみナーサリー

- 節分
- 避難訓練・初期消火訓練
- (抜き打ち)火災・主任不在・屋外避難
- 保護者会

こども園

- 節分(豆まき)・誕生会
- 避難訓練・安全指導・表現遊びの会(3歳児)
- 第4回ワクワクデー(遊び歌)
- 新年度2号3号新入園児健康診断・面接
- 新年度3歳児1号一日入園

附属高等学校

- 新入生説明会・期末考査・答案返却
- 卒業式予行・歓送会・卒業式
- SSH生徒成果発表会・修了式

附属中学校

- 保護者会(3年)・音楽行事・歓送会
- 卒業式・学力テスト(1・2年)
- 修了式・保護者会(1・2年)・Spring English

附属小学校

- 授業参観 保護者総会・かがみ会総会
- 附中生のお話を聴く会(4年)
- 郊外園ジャガイモ苗植え・校外学習(5年)
- 校外学習(1・4年)・学年活動(2年・6年)
- 卒業おめでとうの会
- 保護者会(各学年)・個人面談
- 卒業式・修了式

附属幼稚園

- ひなまつり・5歳児お楽しみ会
- PTA総会・保護者全体会・卒業式
- 3歳児・4歳児終業式

いずみナーサリー

- ひなまつり
- 親子で遊ぶ会
- 避難訓練
- (抜き打ち)地震・室内待機または屋外避難

こども園

- ひなまつり・誕生会
- 新年度2号3号新入園児保護者会
- お別れ遠足(4歳児・5歳児)・にこにこ動物園
- 親子デイキャンプ(5歳児)
- 遠足(3歳児)・卒園式・遠足(2歳児)
- 終業式・第5回ワクワクデー(机磨き)
- (予告無し)避難訓練・安全指導



Ochadai GAZETTE

vol.276
Spring
2024

発行日 / 2024年4月1日
発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報担当

電話：03-5978-5105 FAX: 03-5978-5545

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>



本誌、およびバックナンバーは、
本学ホームページに掲載されています。
どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学は
2025年に創立150周年を迎えます



お茶の水女子大学
Ochanomizu University